



新世紀のキャンパス

Campus of New Century

広島修道大学 協創館

学生・教職員・地域社会が共に未来を創る拠点、協創館(8号館)の外観。

開放的な1Fのエントランスホール。シンボルカラーの紺がシックな藍染めの壁には、広島県福山市の特産「和紙系入りデニム生地」を使用。



手前から協創館、中央の図書館、奥の研究棟(新3号館)と、キャンパス中央に象徴的な学習・研究拠点を整備した。



広島修道大学は、学生数約6000人、5学部9学科を擁する文系総合大学だ。ここに2015年3月、協創館(8号館)が完成した。

2012年度から議論を続け、「今後社会から大学に求められる新たな役割を発展させる施設を目指した」と語るの、宇野伸浩副学長だ。

その役割とは、地域社会と連携した教育、主体的な学修を促す学習支援、グローバル人材の育成だ。そこで誕生したのが、キャンパス内に点在する3つのセンター「ひろみら(ひろしま未来協創)センター」「学習支援センター」「国際センター」を1カ所に集めた、新しい教育の拠点「協創館」だ。

「協創館で3センターが実現したかったコンセプトは“成長実感”」と語るの、佐渡紀子学習支援センター長だ。主体的に学びたいと考える学生、留学生、それを支援する教職員の出会いを促し、学生が互いの学びを共有することで成長を実感できる空間にしたかったという。

地下1F、地上4F建ての館内には、地下1Fに「ひろみらセンター」、1Fに「学習支援センター」と「国際センター」を隣接させ、教育の可視化を実現。2・3Fに「語学学習室」「講義室」、4Fに心理学実験実習室「こころLAB」を配置している。

まず「ひろみらセンター」だが、文部科学省の地(知)の拠点整備(COC)事業に、同大学の「イノベーション・ブリッジによるひろしま未来協創プロジェクト(ひろみらプロジェクト)」が採択されている。私立大の申請180件中15件という激戦の中の採択は注目に値する。これは、地域社会の要請のもとに誕生した同大学が、「地域社会の発展に貢献できる人材の養成」の理



可動式のテーブルとイスを配置した「まなび commons」は、グループワークやディスカッション等を行うラーニング commons として活用するスペースだ。

念にマッチしたPBL「地域つながるプロジェクト」に2010年度から継続的に取り組んできた結果だ。なかでも日本人学生と留学生と一緒に、3カ国語対応の観光案内アプリを作成した「山陰・山陽スマート観光のためのコンテンツリッチ化検討プロジェクト」は学内外で評価が高く、学生が地域に出て、チームで活動することが非常に良い学習成果を持つことが分かったという。

事業の採択を受け、2014年度に全学部横断型の「地域イノベーションコース」を新設。現在1・2年生の約400名が登録する人気コースだ。4年間のカリキュラムで、1年次は座学、2～4年次は学外の地域拠点「ちいスタ(地域協創スタジオ)」でPBLやサービスラーニング等を学ぶ。「ひろみらセンター」は、こうした地域イノベーションコースの運営を、所属する職員と教員が推進する組織だ。

次に「学習支援センター」だが、学習アドバイザーが常勤する「まなびカウンター」において、文章作成・語学学習

支援を行うほか、個人・グループ学習ゾーン「まなび commons」、PCスペース「まなびラボ」、「まなびホール」等、グループ学習スペースを多く配置したのが特徴。まなびホールで半年間プレゼン力を磨く“プレゼンマスターズ”等、学生主体のスタディグループも盛んだ。

そして「国際センター」は、世界12カ国・地域29大学と協定を結び、昨年度は230名の学生を海外に派遣し、約150名の留学生を受け入れる等の国際交流を推進している。協創館1FのiCafeでは、学生が多言語・多文化に触れる機会を多く設けており、学内の国際交流スペースとして賑わっているという。

まさに教育改革の中核ともいえる協創館だが、利用する学生は得てして意欲の高い学生に偏りがち。「利用者の層を広げることと、国際教育カリキュラムの構築等国際センターの強化が今後のテーマ」と宇野副学長。さらなる充実化に期待したい。

(取材/林 知里 文/能地泰代)



国際センター主催のTOEIC®・TOEFL® 勉強会や、学習支援センター主催のワークショップ、学生主体のスタディグループで賑わう「まなびホール」。



大学の国際化を推進する「国際センター」と自主学習を支援する「学習支援センター」の職員を一堂に集め、横の情報交換にも役立っている。



国際交流スペースとして利用される施設、「iCafe (International Cafe)」。室内では母国語以外の言語のみでコミュニケーションする。

2017年度開設予定の心理学科では、国会で承認された新しい国家資格「公認心理師」を取得できることを目指して、新たな実験室「こころLAB」を用意。



地域の方と学生のミーティングに使われる「ひろみらエントランススクエア」。壁面のオブジェには学生が染色した藍染めが用いられている。



地域連携を推進する「ひろみらセンター」には、「ピア・カウンター」を設け、学生のボランティア活動の支援等も行っている。



学外拠点「ちいスタ」だけでなく、キャンパス内にも「ひろみらスタジオA・B」を開設。地域連携の行事やボランティア活動等を支援するスペース。